

三嶺(1894m)・剣山(1955m)・次郎笈(1930m) NO.1.



< I 日目(三嶺)>
(ハイライトシーン)

※弥生班 計7名

[実施日--2025年10月19日(日)~20日(月)]

① (名頃駐車場)



② (三嶺登山口)



⑤ (紅葉)



④ (紅葉)



③ (山行開始)



⑥ (シコクザサの山肌)



⑦ (ガスに覆われる)



⑧ (三嶺の山頂)



⑨ (かずら橋)



三嶺(1894m)・剣山(1955m)・次郎笈(1930m) NO.2.



<2日目(剣山・次郎笈)>

⑩ (剣山の登山口)



⑪ (刀掛の松)



⑫ (遊歩道)



⑬ (剣山の山頂)



⑭ (剣山からの次郎笈)



⑮ (次郎笈からの剣山)



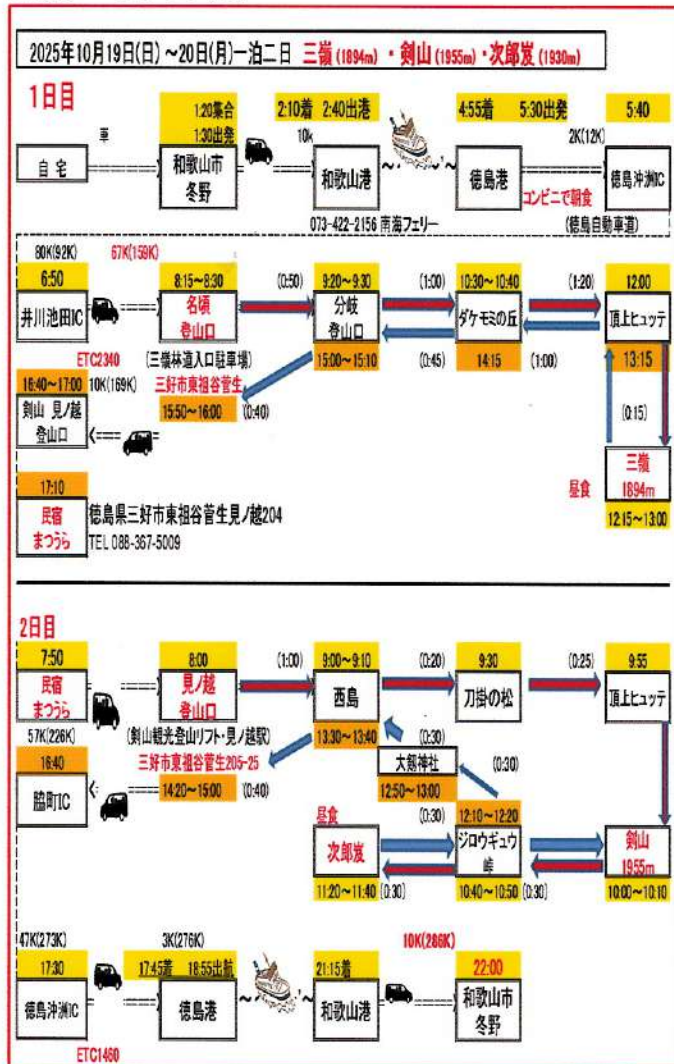
⑯ (次郎笈の山頂)



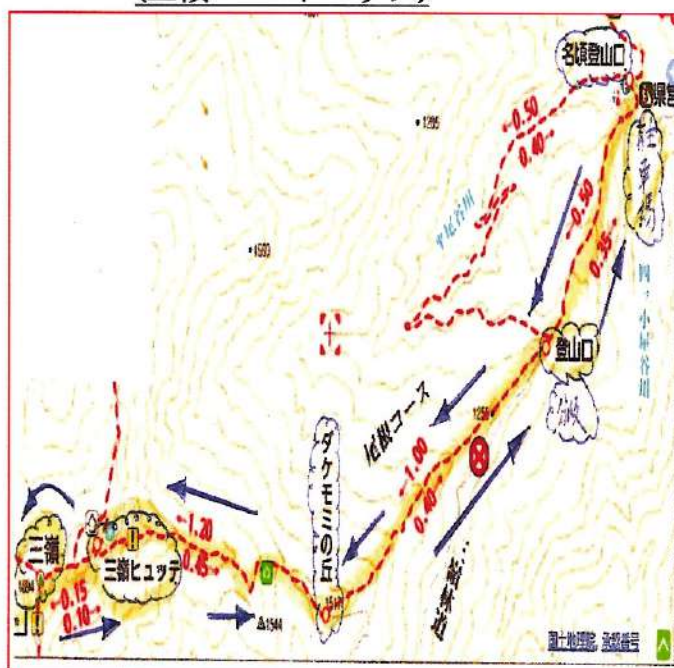
三嶺・劍山・次郎岨

※(山行日) --- 2025 年 10 月 19 日~20 日

※(行 程) [予定]



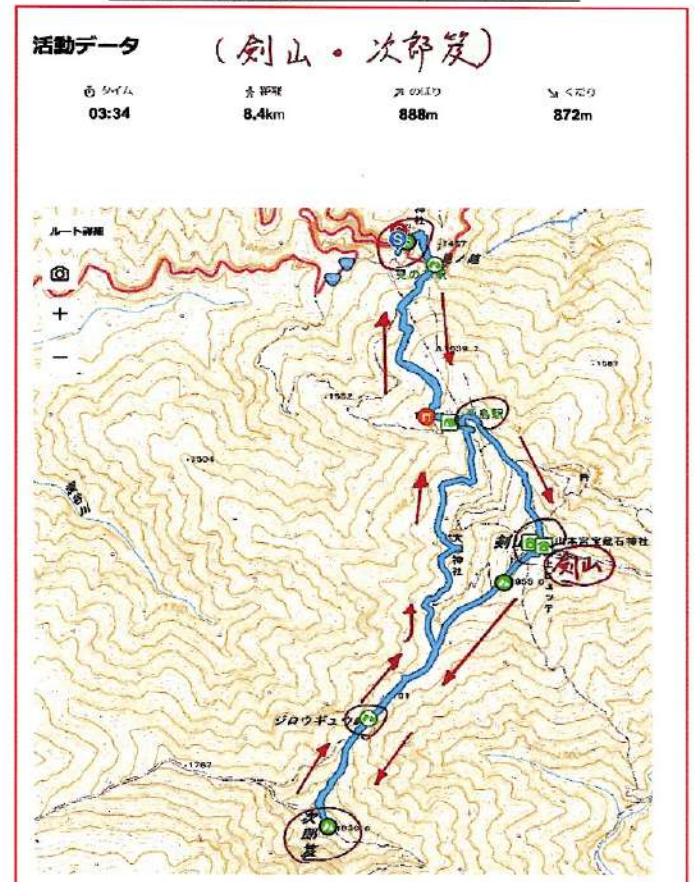
(三嶺 ロードマップ)



紀峰山の会 (弥生班)

(計7名) 岡本、八木、新延、有本、
(会員外)----- 楠部、関、北山

(剣山・次郎岨 ロードマップ)



※[はじめに]

(三嶺)

○剣山国定公園西端の三嶺(1894m)は、徳島県三好市と高知県香美市にまたがる高知県最高峰。主に徳島側では「みうね」、高知側では「さんれい」と呼ばれる。

(劍山)

○剣山(1955m)は、徳島県の最高峰であり、西日本でも同じ四国(愛媛県)の石鎚山に次ぐ第二の高峰。山名とは異なる女性的な山容で、山頂はなだらかな笹原が広がる。

(次郎岌)

○**次郎岨(1930m)**は、剣山の山頂から南西方面にある山で、剣山と変わらない高さと同じ大きさの立派な山容を横たえ、剣山は別名「太郎笈」とも呼ばれ、太郎・次郎の兄弟峰でもある。山頂は360度の展望が広がる。

(写真 1)

(三嶺登山口)



- ・南海フェリーに乗り、現地の名頃登山口に8時20分到着。
この後、三嶺山頂と登山口の散策の2班に分かれ行動。

(写真 2)

(山行開始)



- ・きちんと整列して、ゴウー

(写真 3)

(紅葉)



- ・きれいな紅葉の下で小休憩。

(写真 4)

(シコクザサの山肌)



- ・シコクザサに覆われた急登

(写真 5)

(ガスに覆われる)



- ・急にガスに覆われ、周りは真っ白で視界0。

(写真 6)

(三嶺山頂)



- ・11時40分、登頂。

(写真 7) (かずら橋—その 1)



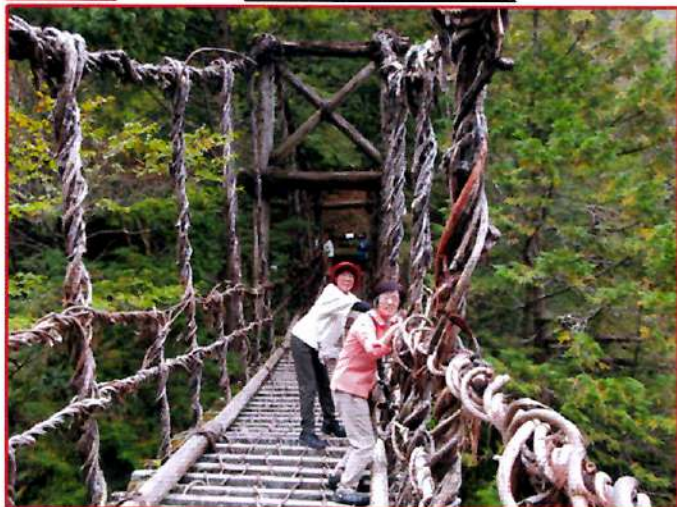
・下山後、車で移動し、かずら橋を散策する。

(写真 10) (剣山登山口)



・ 8 時、出発。

(写真 8) (かずら橋—その 2)



(写真 11) (刀掛の松)



・ ここで小休憩。

(写真 9) (夕食)



・ 17 時、民宿まつうらに到着。
入浴後、反省会と楽しい会話で夕食。
まずは、乾〜杯。

(写真 12) (剣山の山頂)



・ 10 時 20 分、山頂へ到着。
若干のガスがあるが、360 度のパノラマ
が広がる。

(写真 13)

(剣山からの次郎笈)



- ・次郎笈の頭が現れる。

(写真 14)

(稜線)



- ・剣山から次郎笈への稜線。
緑色のシコクザサがきれいだ。

(写真 15)

(次郎笈の山頂)



- ・11時20分到着。

(写真 16)

(次郎笈からの剣山)



- ・すっかり晴れ渡り、360度のパノラマが広がる。11時40分、昼食後下山。
- ・14時、駐車場に到着。帰りも南海フェリーの手配であったが、変更して淡路島経由で車移動で、帰路に就く。

※(最後に)

- 1日目の三嶺は、予想していた以上に急登があり、山頂手前では段差の大きい階段とガレ場で登頂に苦労した。
- 山頂はガスが立ち込め展望はなし。頂上からは、剣山、石鎚山から土佐湾を間近に望む大展望と聞いていただけに残念である。近くの山肌は四国の山独特の「シコクザサ」が霧で一面に覆われ、幻想的な風景であった。
- 往復コースであるが下山もハードで、「シコクザサ」と大小の石や岩の高低差とで足場が安定しないので、思った以上に時間を要した。
- 車で移動し、二重かずら橋を見学後、民宿まっくらで宿泊。

- 2日目は疲労があつたが、天気が良くなる情報で期待感の朝を迎えた。
- 剣山への登りでは、登山道が整備され快適に進んだが、ガスが立ち込め本日も展望はダメかと思ひながらの山行となった。剣山山頂では、徐々にガスが流れ、対面の次郎笈や緑色の稜線が現れ、来てよかったとの思いとなる。
- 次郎笈では更に日が射し、剣山と稜線がくっきりと見え、近くの紅葉と遠くの雲海、360度のパノラマを見ながらの昼食は、心とお腹を満腹にし、堪能しました。
- 天気を気にしながらの山行でしたが、メンバーの日頃からの行いがよく？結果的には満喫した2日間の旅でした。